

科目名	建築構造力学Ⅱ	英語科目名	Mechanics of Building Structures II
開講年度・学期	平成24年度 通年	対象学科・専攻・学年	建築学科・3年
授業形態	講義	必修 or 選択	必修、必合格
単位数	2単位	単位種類	履修単位 (32) h
担当教員	高橋純一	居室(もしくは所属)	専攻科棟4階
電話	0285-20-2831	E-mail	takajun@oyama-ct.ac.jp
授業の達成目標	授業達成目標との対応		
	小山高専の教育方針	学習・教育目標(JABEE)	JABEE 基準要件
1. 応力度およびひずみ度とこれらの関係である弾性法則を理解する。			
2. 部材に生ずる応力と応力度の関係を理解し、応力度の計算ができること。			
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法			
達成目標1～2 : 試験において60%以上の成績で評価する。提出レポートの内容を設定水準で評価する。			
評価方法			
評価は下記2項目の加重平均により行う。			
1. 中間試験2回、期末試験2回形4回の試験の加重平均(90%)			
2. 課題の解答内容(10%)			
授業内容			
【前期】			
1. 応力度とひずみ度および弾性(3週)			
2. 物体内の応力度間の関係(3週)			
3. 温度応力、摩擦力(1週)			
4. (中間試験)			
5. 梁における応力度(3週)			
6. 断面の性質(3週)			
(期末試験)			
7. 前期総復習			
【後期】			
8. 構造材料の性質(1週)			
9. 許容応力度(2週)			
10. トラスの設計(1週)			
11. 梁の設計(1週)			
12. 柱の設計(1週)			
13. (中間試験)			
14. 梁の変形(2週)			
15. 固定はり(2週)			
16. 連続はり(1週)			
17. 不静定ラーメン解法の基礎(2週)			
(期末試験)			
18. 目標達成確認、総復習			
キーワード	応力度、ひずみ度、主応力、梁、柱、断面の性質、許容応力度、たわみ、たわみ角		
教科書	武藤清他「大学課程 建築構造力学」、オーム社(1989)		
参考書	1. 上田「建築構造力学」、オーム社(2010) 2. 元結、大塚「建築構造力学」、市ヶ谷出版(2009) 3. 坂田、島崎「建築構造力学Ⅰ」、学芸出版(2003) 4. 寺本「建築構造力学Ⅰ」、森北出版(2005)		
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目	建築構造力学Ⅰ、建築構造力学演習		
現学年の関連科目	応用物理、建築材料		
次年度以降の関連科目	建築構造力学Ⅲ、鉄筋コンクリート構造、鋼構造、木構造、建築構造計画、建築耐震構造、建築法規、建築応用力学、卒業研究(構造系)		
連絡事項			
1. 授業時間中に講義内容を理解する。わからないときは可能な限りその場で質問すること。			
2. 授業の復習は大切であり、演習問題は必ず自分で解くこと。			
シラバス作成年月日	平成24年2月22日		